

1. 開催日時：2018 年 9 月 27 日（木） 11：30～14：55

2. 開催場所：島根県立石見高等看護学院 会議室

3. 出席者

氏名	所属	職名	備考
今若 陽子	益田保健所	総務保健部長	所長代理
宮内 幸子	益田赤十字病院	看護部長	
齋藤 裕子	益田地域医療センター 医師会病院	看護部長	
福田 達恵	島根県立松江高等看護学院	副学院長	
寺戸 恵子	石見高等看護学院同窓会	会長	
狩野 卓夫	石見高等看護学院	学院長	
齋藤 晃大	々	副学院長	
加藤 典子	々	々	
吉田 真奈美	々	教務主任	
中島 美和子	々	主任看護教員	
峯尾 まゆみ	々	々	
山田 奈穂子	々	々	
加登 泉	々	看護教員	

4. 会議次第

- 1) 委員長あいさつ
- 2) 自己紹介
- 3) 出席教職員の紹介
- 4) 学院内見学
- 5) 学校評価について
- 6) 学院の概要・教育活動等について
- 7) 評価の実施・結果について
- 8) 全体を終えての質疑応答・意見交換
- 9) 今後の予定について

5. 協議内容

1) 委員長より挨拶

今年度より学院長に就任した。今後も副学院長や教職員の方々と協力し合いながら学院を運営していきたい。

今年度で3回目を迎える学校関係者評価委員会であるが、委員の皆様にはご多用の中、ご参加いただき感謝申し上げます。新しく3名の方が委員になられた。なにとぞよろしくお願いいたします。

学生の様子はというと、9月になり夏休みが明け、どの学年も休みモードから学習モードに切り替えて勉強に励んでいるところである。本日は学院内の設備や授業風景を見ていただき、多くのご意見を頂戴したい。

2) 自己紹介

それぞれの委員が学院との関係性を踏まえながら自己紹介。

3) 出席職員の紹介

学院の出席教職員の紹介。

4) 学院内の施設、設備、授業等について見学を行った（寮は除く）。

5) 学校評価について

学院より、学院のこれまでの学校評価の流れについて資料に基づき説明。

6) 学院の概要・教育活動について

(1) 学院より、学院の概要および医師会中長期計画について資料に基づき説明。

(2) 学院より、教務部目標、教育計画について資料に基づき説明。

7) 平成29年度についての評価の実施・結果について

(1) 学院より、評価委員の活動および自己点検・自己評価の結果について資料に基づいて説明。

(2) 学院より、「学生による学校評価アンケート」について資料に基づき説明。

(3) 学院より、「学生による授業アンケート」および「保護者アンケート」について資料に基づき説明。

(4) 学院より、「入学者アンケート」および「卒業前アンケート」について資料に基づき説明。

8) 質疑応答・意見交換

委員長より：さきほど説明した内容や、全体を通して何かご意見・ご質問があればお願いしたい。

委員より：学院の「協同学習」に関する取り組みが良い。学年の垣根を越えて学習することの意義は大きいのではないか。同じ学年（クラス内）にも様々な人間がいる。その中で他者をみながら良い関係性を築いていくためにも、一緒に学ぶという体制づくりがされていて良い。そういう経験は現場に出ても役立つ。

また、学院のホームページが可愛くて魅力がある。外部にむけてよい情報発信になっているのではないか。メディア（ひとまるビジョン）と協力しあい、学生をリポーターとして起用し、番組を作成されているところも素晴らしいと感じる。

委員より：県内就業率が高い割合で維持されているが、県外の病院を希望する学生に対して、県内に留まるように何か指導されているか。

学院より：当学院は県立の学校であるため、県立としての役割等についてはもちろん、折に触れて学生には伝えている。学院理念でもある地域貢献についても、県内就職をすることがそれに繋がることも伝えるようにしている。しかし、当然ながら学生の進路を強制はできないので、県外に就職することを強く希望している学生については、スキルを身につけ

てまた島根にぜひ戻ってきてほしいと話している。

委員より：病院側にとっても県内に残ってもらえるような魅力ある病院づくりも必要だということがいえる。

学院より：県内就業率については、10年前はだいたい60%であった。それが現在では80%以上になっている。これは地域推薦制度を導入し、その取り組みが功を奏した結果である。地域推薦者は入学者の10人程度を占めているので、そのため高い就業率となって表れている。県議会では当学院や県立大学の県内就業率について必ず議題にあがる。学生の希望ももちろん大事にしなければならないが、学院としては県内就業をすすめたという思いである。

委員長より：学院設立当初の卒業生も本日おられるが、当時の県内就業率はいかがであったか。

委員より：当初も一部の学生は県外に就職していたと記憶している。入学者数自体が少なく、県外の学生もあまりいなかった。

委員長より：時代によって入学者の状況は変わってくるといえるが、今までも今後も県内の看護師確保に当学院が果たす役割は大きいといえるのではないか。

委員より：さきほど授業を見せていただいたが、長い髪を触りながら授業を受けている学生がいた。授業に集中して聴いているのか気になる。実習の際はきちんと髪を整えている様子であるが、授業中のそういった学生に何か指導されることはあるか。

学院より：実習の際には、髪の長さ、色についてきちんと指導している。しかし、学内での授業の時まで厳しく指導はしてはいない。おしゃれが楽しい世代であり、今を生きる若者のひとりであることも理解し、おしゃれを楽しみたい気持ちを認めてあげることも必要と考える。くれぐれも学生という立場をわきまえ、公私のけじめはつけるよう指導している。

学院より：そのことに関して、病院の方でもなにか指導されていることはあるか。

委員より：病院においても髪の長さによってまとめることや髪の色、ピアスはしないなどの規定はある。

委員より：当院も規定があり、髪留めに関しては華美でないもの、ぶら下がるタイプのピアスは不可などの決まりがある。

学院より：以前、入学予定者から入学前に、髪の色の規定はあるかなど問い合わせがあった。県内のある水族館のように、お金をいただいてサービスを提供する施設である場合、お客様が不愉快に思われるおしゃれは慎むように指導されている。当学院はというと学生であり、普段の生活を送る上でそこまで指導する必要性はないのではと考えている。

学院より：身だしなみについては、学生委員会であるクラスイメージアップ委員会で自主規制をつくっている。例えば、スウェットやジャージ、健康サンダル（ビーチサンダル）は着用禁止である。それは、講師によっては不愉快に感じる可能性があるからであり、そういった決まりを委員会で検討し、教員がフォローに入りながらではあるが、学生達自身に考えさせて決めている。

さきほどの授業中に髪の毛を触る学生についてであるが、もしかすると集中するために必要な動作なのかもしれない。抜毛症などの病的な行為に発展すれば問題であるため、学生の様子を観察していき対応する必要があると考える。

委員より：今回の学校関係者評価委員会に参加し、外部から多くの評価をもらいながら学院をより発展させていこうと取り組まれていることが分かった。協同の精神をもとにした協同学習を推進されていることがとてもよい。看護職はチームで働く仕事であり、協同学習はチームワークを育むことにつながる。また、他者に教えることが一番の勉強になると聞く。そういった意味でも協同学習の効果は高いのではないかと考える。

さきほど昼食時に観た、ひとまるビジョンの「石見健康調査隊」のテーマが禁煙についてであったが、敷地内は禁煙か。

また、授業を見学した教室であるが、狭い面積に多くの人がいるのと、温かい日で

あるためか、むっとした空気が感じられた。CO2 濃度などの測定はされているのか。換気扇の設備はあるか。

学院より：CO2 濃度については規定にもとづいて定期的に測定している。その結果、実は一番濃度が高いのは図書室であり、図書委員会で検討し、委員が定期的な換気を行っている。教室には換気扇が設置されている。また、換気についても学生に行うよう指導しているが、認識が低く、なかなか実施できていない実情である。これからインフルエンザが流行する季節でもあり、定期的な換気については強く指導していく予定である。

委員より：特にはないが、実習に関して、患者の入退院が激しいことや、入院患者の部屋変え、転棟が多く、学生に迷惑をかけてしまうことがあり申し訳ない。また、それもあり看護師もバタバタと忙しく、学生が声をかけづらい現状があるのではないかと。そのような状況ではあるが、看護師となる仲間を病棟の皆で育てようと、機会があるたびにスタッフに伝えているところである。最近の新人看護師の傾向として、意欲的に主体的に行動できる人とそうでない人との差が激しい。メンタル面で問題を抱えたり、業務に適応できない看護師も多くなってきており、現場も苦労しているところである。

委員より：さきほどの喫煙の話になるが、学生の喫煙者はいるか。

学院より：学生が吸っている姿を見たことはないし、吸い殻も捨てられていない。また、タバコの臭いを感じることはなく、私たちが把握している限りでは隠れて吸っている者もいないのではないかと。

委員より：学生のメンタルケア（カウンセリング状況）についていかがか。利用されている人数が少ないと聞いたが。

学院より：これまでのカウンセリング状況として、利用者が少なく、効果的な利用ができていないことが課題にあがっていた。そのため、今年度より新たな取り組みとして、1年生が4人ずつの10グループになり、スクールカウンセラーと自由に対話する機会を設けた。全員が終わったところであり、学生からは「何かあったら利用したい」といった良い反応が見られた。しかし、その後に1人で利用した学生はまだいない。

委員長より：様々な立場から意見をいただいた。学校として今後も努力していく。

9) 今後の予定について

事務局より評価シートの送付の件と、評価の提出期限について説明した。また、本委員会の協議結果を外部に公表するにあたり、氏名、所属を公表する件について再度説明し、了承を得た。